

## 「ごもだちのときちゃん」を読んで

3年 H・Kくん

ぼくと主人公のさつきちゃんはいてるところが多いなと思いました。ぼくは、知っていることをお友だちやお母さんにたくさん話して、「色いろなことを知っているね。」とほめてもらうのが好きです。だからさつきちゃんの気持ちがよく分かりました。四月生まれなのと同じです。さつきちゃんとはきちゃんに対して、自分の方が物知りだし、おしゃべりもたくさんだし、やる事も早いし少しゆうえつ感を持っていたんじゃないかなと思いました。

でもある日、坂下さんという女の人のスカートのもようをときちゃんは見えて、さつきちゃんは見えていませんでした。それでさつきちゃんは「ときちゃんはわたしとはちがつころが見えているんだ」と気づきます。アリの行れつを見ている時も、ときちゃん「だ」に行ってきたのかな」「ピカピカしているな」などとへつのことを考えていました。友だちでも家そくでも、自分と他の人はちがうんだなと思います。そして、それがいいことだなと思いました。一人一人、とく意なことがちがっているから、世界がなり立っているんだろつなと思います。

大きな男の子たちにときちゃんがかまれて、絵をなげすてられた時、ぼくはさつきちゃんと同じように助けにはいけないけれど、その後いつじみに絵を拾ってあげたり、大じょうぶぶと声をかけてあげたりしたいです。ぼくはいつも友だちのことを思いやっあげたいです。

ぼくにも三才としのお兄ちゃんがあります。お父さんやお母さんを見ていてもへん化に気づけないけれど、お兄ちゃんは少しずつせがのびて声もひくくなってきました。毎日ちよつとずつかわっているのです。きのうと今日でちがう、というところにともときちゃんは気づいていました。じっくりと色んな事を考えられるときちゃんはすごいと思います。そつじやうに、

「へんきちゃんや友だちでなにかあったなああ。」

と恐るるとつきちゃんもすごいと思います。まわりの人たちのことを好きになって、みゆめてあげられるのはじょうじやうだと思えます。

ごもだち

「カメのうららの中に、何があゆめやうか。」

と聞きました。そなたへへ、ぼくは考えたことがありませんでした。ぼくは家であつてうるカメのむめい、

「うららの中には、本堂に強う出がしまつてうるめい。」

へんの中で聞きました。ひめは首をのぼしてぼくを見ました。わらつているように見えましたが、今ひめは、じつじの中からはくとの楽しい思い出を一つ取り出したのかも知れないと思えました。人間だけじゃなく生き物も、毎日何かを考えているのかも知れません。明日も家そくや友だちや先生に会うのが楽しみにになりました。